

令和元年度 山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第4分科会

富士吉田市立富士小学校

校長 田邊 和夫

## 「家庭・地域・学校の力で社会環境の向上を」

～心の交流から地域の絆へ～

### はじめに



富士小学校



シチズン電子



富士見台中学校

上暮地地域は、昭和35年1月に当時、西桂町であった小沼の一部と上暮地が富士吉田市と合併し、新しく上暮地地区が誕生した。昭和35年4月に富士小学校が開校、昭和40年に福昌寺幼稚園が開園、昭和57年に富士見台中学校が開校、関連施設として昭和42年に上暮地歩道橋が完成、昭和45年にシチズン電子が創立、昭和46年からは寿団地の建設が始まり、上暮地という一つの町ができあがり、今日まで発展してきた。

### I 学校の概要

富士吉田市内の学校は南北に約5km、東西では約3km、標高差約160mの中に、小学校7校、中学校4校がある。その中で本校は、最も北側に位置し、標高702m



壁を外し開放的な教室

で、東側を山に囲まれ、校庭はたくさんの桜に囲まれて、春には富士吉田市内では、最初に桜が満開を迎える。南側には校舎越しに富士山を望むことができる。また、学校の北側には「暮地（くれち）の坂」と呼ばれる斜度7%の大きくて急な坂道があり、学区全体の高低差は60m以上ある。多くの児童がこの高低差を毎日通学している。



学年を超えて卓球

現校舎は、昭和63年に改築され、普通教室は可動壁型で、オープンスペース教室となっている。活動内容に合わせて教室を広げて使うことができるだけでなく、広いカーペットのスペースが、休み時間など他学年との交流の場としても使われている。

## Ⅱ よりよい社会環境の構築（地域と連携した取組）

上暮地地域は、富士小学校・富士見台中学校・シチズン電子の2校1企業があり、距離的にも近く連携活動の実践がしやすい地域である。まず始めに連携活動が始まったのは、富士見台中学校との小中連携である。きっかけは、平成18・19年度に文部科学省「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」の地域指定を受けたことにある。その際、小中統一で「豊かな心を育てる家庭の十カ条」を制定した。それ以降、年々小中連携活動が盛んになっている。また、地域の幼稚園の閉園により現在は、比較的入学者数の多い市立第三保育園と西桂保育所と交流活動を行っている。また、企業との連携ではシチズン電子と平成30年よりあいさつ運動を毎月第一月曜日の朝、小学校前とシチズン電子前で小中シチズンの三者で行っている。

### 「豊かな心を育てる家庭の十カ条」

- ★家族から始まる元気なあいさつ。明るく心が育ちます。  
あいさつは心の扉を開きます。「はいよう」「さようなら」「いただきます」「ありがとうございます」あいさつが心を開き、笑顔が生まれます。
- ★食事はみんなで、決まりよい生活は家族みんなの協力です。  
食事は心の健康に繋がります。家族、揃っての食事で、決まりよい一日の生活リズムを築くことは、生活習慣病予防の基礎となります。
- ★豊かな感性は日常の楽しい言葉遣いで育ちます。  
言葉の面白さは他人に伝わります。言葉から相手と繋がって生きていくには言葉の大切さを学ばせましょう。
- ★「読書は心の栄養素」家族そろって読書で心を豊かにしよう。  
読書は心を豊かにし、想像力を育てます。読書の楽しさを家族で分かち合おう。「読書の楽しさ」を決めておくと、読書習慣が定着しやすくなります。一緒に読んで話し合おう。
- ★ふれあいは家族みんなのほらいや活動で深まります。  
読書は家族みんなが自分のペースで読んでも構いません。読書の楽しさを家族で分かち合おう。一緒に読んで話し合おう。
- ★「我が家のルール」守ることで社会のルールも学びます。  
「家族のルール」を決めておくと、社会規範が定着しやすくなります。家で大人が率先して守らせます。
- ★家族一人ひとりが目標を、生きる力が湧いていきます。  
読書一人ひとり、年齢に応じて、夢や目標を持って生活することが生きる力を育てます。
- ★子どもの変化は毎週月歩、変化に気づくアンテナを高く保ちます。  
子どもは変化に敏感です。変化に気づくアンテナを高くと、子どもが伸び伸びと成長できる環境を作ることができます。
- ★子育ては親も、悩みも痛みも乗り越えようとしていけます。  
子育ては子育てで、悩みも痛みも乗り越えようとしていけます。子育ては子育てで、悩みも痛みも乗り越えようとしていけます。
- ★地域は生活の森羅です。思いやりを大切に、愛も喜びも。  
一人ひとりが、思いやりを持って生きていく。人間関係の大切さを学ばせよう。思いやりを大切に、愛も喜びも。

富士小学校、富士見中学校、シチズン電子

### 1 中学校との連携

#### (1) 教師及び授業の連携

- ①小中合同職員会議（年2回）
- ②小学校への乗り入れ授業（英語・数学）
- ③中学校教師による小6の授業観察



小中合同職員会議（スクールカウンセラーを講師に迎え）

#### (2) 児童・生徒の連携

- ①小中合同あいさつ運動（年3回）
- ②清流祭（学園祭）のPR活動
- ③小中合唱交歓会（小4～中3）
- ④部活動体験入部（小6）
- ⑤小学校運動会（ソーラン節披露）



小中合同練習会

- ⑥中2による小中縦割り集会
- ⑦富台中図書委員による読み聞かせ
- ⑧小中合同練習会(金管バンド&吹奏楽部)
- ⑨土曜参観日の富士見台中の紹介
- ⑩中学入学説明会(11月開催)



第1回小中合唱交歓会



富士見台中生徒会による清流祭PR活動



部活動体験入部



小中合同あいさつ運動



小中縦割り活動



図書委員による読み聞かせ

## 2 地域との連携

### (1) 地域・保護者による登下校の見守り

平成26年度より白糸・寿地区の富士急行線沿いの農道の拡幅工事により、自動車の乗り入れが容易になり、朝夕の交通量が増加した。そのためにより児童の登下校に関して危険度が増し、通学路の安全見守りが必要になり、地域や保護者にも当番で登校時の見守りをお願いしている。そして、毎年11月に登下校の安全見守りをさせていただいている富士小ガードの方を学校へ招待して、感謝の会を行い、学年発表や感謝の手紙そして一緒に給食を食べながら交流を深めている。



地域・保護者に見守られ



一緒においしい給食を食べながら

## (2) 小・中学校と企業が連携したあいさつ運動



あいさつは、コミュニケーションの第一歩である。人と人の心を結び、絆を深める大切な架け橋となる。この「あいさつ」が私たちの周りに起こりうる身近な犯罪を防ぐ上で大きな



シチズン電子前の横断歩道

富士小ポーチ前で 力になっており、地域の連帯感を強め、思いやりの醸成を深めながら豊かな人間関係を育み、明るく安全で住みよい地域社会づくりにつながっている。富士小・富士見台中では、以前より小中連携活動の一つとして「小中合同あいさつ運動」は年に3回行ってきた。シチズン電子の社員の方とは、毎日同じ道を通勤・通学する中で今までもお互いにあいさつは、交わしてきた。そんな中昨年度、シチズン電子の理解と協力の下、小・中・企業が連携して行うあいさつ運動が実現した。地域との連携が重要なこの時期、シチズン電子には感謝したい。そしてこの活動があいさつだけにとどまらないでお互いに交流できる機会が設けられるよう、話し合いを重ねていきたい。あいさつを通じて、地域の絆を深め、豊かな心の育成を目指し、明るく安全な住みやすい地域社会にしたい。

## (3) 地域・行政と連携した環境整備



富士小・富士見台中の児童・生徒の通学路は狭く、安全面で不安があったが、地域の自治会や教育委員会を通じて、安全に通学できるようになった。（グリーン帯の塗装、白線の塗装等）また、通学路の雑草の除草も対応してくれている。地域や行政が学校の通学路の安全のための環境整備を積極的に行っている。また、学校の敷地内の環境整備についても役目を終えたヒマラヤスギ（防砂林）を教育委員会も対応が早く、早々に伐採してくれた。今後も安全・安心な環境整備を地域・行政と連携して、引き続き行っていきたい。



おわりに

富士小・富士見台中の小中連携が児童・生徒を中心に定着してきている。一方で課題も明らかになってきた。①少子化により子どもの人数の減少 ②中学校へ進学する生徒の減少（部活動等）がある。しかし、小規模校の魅力を発信することで少しでも解消していきたい。

今後は、この地域連携を推進する上で9年間を見据えた教育も進めていく。

- ①教育目標の一貫性…9年間を見据え「目指す子ども像」の設定
- ②学習指導の継続性と学習内容の系統性…小中合同で指導の一貫性を目指す
- ③地域力の活用…地域人材バンクの拡大と活用により地域学習の推進を図る。